

分別意識改革の元年に

住民立ち合いで初「展開検査」

徳之島愛ランド合
徳広域連合

【徳之島】徳之島愛ランド広域連合(大久保明連合長)は、今年度をゴミ分別収集徹底への「意識改革元年」と位置づけて26日、伊仙町内の収集・搬入分を皮切りに住民代表らを迎えた初の「展開検査」を徳之島愛ランドクリーンセンターで実施した。理想には程遠い分別の現状に肩を落とす一方、分別品目の見直しなど「迷わずに分かりやすい分別案内」をも求めた。

稼働17年目の同クリーンセンター(伊仙町目手久)については、既存施設の性能回復(新設同等)か、天城町への新設移転かなど2023年度までの候補地決定方針などが示された。並行した方針に、ゴミの減量化や分別、リサイクル再資源化の強化などを掲げている。

伊仙町の「不燃ゴミ」収集日に合わせてあつた展開検査には、大久保連合長(伊仙町長)ら行政側をはじめ町内集落区長、町地域女性団体連、連合青年団の各代表ら約10人が参加。広域連合側は、同センター搬入ゴミの分別意識が悪化している現状と訴え、プライバシー配慮ばかりでは処理がはかどらない。現状を見て各団体が啓発をこたえ、展開検査に理解を求めた。

「燃えやすいゴミ」に出してしまつ。現在の3種類分別(可燃・不燃・資源)をもつて各団体で啓発をこたえ、展開検査に理解を求めた。集積場に次々と搬入される不燃ゴミのビニール袋を無作為で取り出して開封。無記名のうえ、金属類とともにプラスチックやペットボトル、紙類、電球など雑物が混入した袋。中には産業廃棄物の農薬容器など農業用廃プラスチック類もあった。

少し細かく増やしてほしい。混ぜればゴミ、分別すれば資源。皆さんの苦勞も分かる。女性連としても見学を勧めたい。区長代表も「新聞、電球、電池とかも含めると分別を増やすべき。ゴミの出し方の指導啓発も行政の役割と「出す側、分別する側(住民)の理解不足も多々あると思うが、簡単な分別指導の出前講座な

ども必要」と意見が。同施設整備基本構想検討委員長の小原幸三氏(鹿児島大名養教授)は「ゴミ分別の状況を考えて点で変化を感じている。分別されていると(処理)作業も合理化される。ゴミ問題と世界自然遺産は一続きあり、徳之島を癒しのツーリズムの世界にしたい」。大久保連合長は「リサイクルを中心としたゴミ処理、生ゴミの堆肥化を含め3町一体となつてやっていきたい」と決意を示した。



「展開検査」に立ち合い、ゴミ分別不徹底の実態を確認した各種団体の代表ら。26日、徳之島愛ランドクリーンセンター(伊仙町)